

年金機構から約125万人の個人情報流出したと世間は騒ぎである。

特定の組織や団体を狙って、ウイルスを仕込んだ巧妙なメールを送り付け、PCやサーバを乗っ取り、それを踏み台にして重要な情報を盗取するという標的型攻撃メールは、専門家に言わせると100%は防ぎようが無いそうである。

今や、インターネットや電子メールは、その利便性ゆえに私達の仕事や生活に欠かせないものになっている。

いつの時代でも、技術が進歩し世の中が便利になれば、その技術を悪用して社会を混乱させ害を及ぼす輩がいるのは人間社会の性で、まさに便利さと危険は表裏一体である。

日本は、こと治安に関しては犯罪率が極めて低く、世界でも有数の安全な国と評価されているが、国境の無いネットの世界では そうした順位付けは無意味なようである。

何か、ドラスティックな妙案は無いものだろうか？
(A.N)

電車で座席を確保するとスマホを取り出す人をよくみかけますが、私は手の調子が悪いため、スマホはできるだけ使わずに、かわりに文庫本を取り出して読んでいます。

ジョン・ヴァーレイが1985年に発表した「プレス・エンター」というSF小説を読みました。とても面白い作品でした。

30年も前の作品ですが、今読んででも新鮮です。サイバー攻撃によるPC乗っ取りや情報漏えいなど、今も解決困難な問題をすでに取り上げています。政府の機

密からご近所のプライバシーまで幅広く公開してしまうという、ネットの負の面を描いています。侵入したハッカーへの攻撃もネットで行われ、草創期にこれほどシステムの負の可能性を予言したのはSFらしい発想だと思いました。

個人情報の漏えいが問題になっていますが、便利な反面、使い次第で脅威にもなるシステムだということをつい忘れてしまいます。

初心に帰ることは必要だと感じました。(M.K)

自分の死後、自分が使用していたPCやスマホがどうなるか、考えたことはあるだろうか。

撮りためた無数の写真の山。中には人に見せられないものもあるかもしれない。また、高額な残高があるネットバンキングの口座の存在を自分しか知らない。あるいは、ゲームや新聞電子版の会員になっている場合、解約しない限り会費が毎月自動で引き落とされてしまう。こうしたものを総称して“デジタル遺品”と呼ぶらしい。

気づいた遺族が故人のPCを起ち上げようとしても、パスワードがかかかっていて起動できない。かなりやっかいな存在だ。

デジタル遺品から遺族にとって不要なデータを選び分け、必要なデータだけを抽出・提供してくれるエンバミングというサービスもある。ただ、データリカバリ業者は赤の他人だから気にしなくてよいとはいえ、他者に任せること自体、不安な人もいるだろう。

いざというときのためにデジタル遺品をどうするか、日頃から家人と相談しておくことも重要なかもしれない。(Y.H)

こんな時が危ない!

- 工事繁忙期よりも、終期、特に撤収作業時
- 非常に危険と思われる作業よりも、それほど危険と思われない作業時
- 同一作業が長く続くよりも、1日~2日とか半日、あるいはもっと短時間で終わる作業時
- わかりきった常識的な作業手順を守らない時
- 作業時に積極的な人が、指示以外の作業をした時
- 安全設備を取りつける段取りに取りかかる前
- 教育を十分うけているはずの職長や工事監督がルール無視の行動をした時
- 立入り禁止箇所、危険箇所を承知していて、そこへ行った時

「Raisers」はホームページでも閲覧可能です!

「Raisers」の最新号から過去記事までホームページで閲覧することができます。

<http://www.itea.or.jp/works/raisers.html>

また、ホームページ内の検索窓から

読みたい記事の関連キーワードにより全文検索も可能です。是非ご利用ください。



Raisers第 63 巻 第 4 号(通巻第713号) 平成 27 年 7 月 5 日印刷 平成 27 年 7 月 10 日発行

定価 648 円(本体価格600円) ※会員、特別会員の本誌の購読料は、会費の中にこれを含む

■編集 一般社団法人電気通信エンジニアリング協会 〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町3-3

Tel. (03) 3464-3211(代) Fax. (03) 3464-3216

■発行所 一般社団法人電気通信協会 〒163-1455 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー13F

Tel. (03) 5353-0184 Fax (03) 5353-0194

(本誌掲載記事の無断転載を禁じます。)

